

今年一年の開運と 無病息災を願って

～第35回登別温泉湯まつり～

2月3日(金)と4日(土)の2日間、登別温泉とカルルス温泉で『第35回登別温泉湯まつり』(市、登別観光協会主催)が行われました。

この催しは、登別温泉の豊富な湯量と優れた泉質に感謝し、開運と無病息災を願うまつりとして、節分に合わせて毎年開催されています。

閻魔大王の使者である赤鬼と青鬼の『湯鬼神』が、郷土芸能『湯鬼神かぐら』を披露して厄払いをしながら、旅館やホテル、飲食店、小学校などを回って観光客や市民を喜ばせていたほか、閻魔堂前では、愛知県のカップルが結婚式を挙げ、見守っていた親族や観光客からは、祝福の大きな拍手が起こっていました。

4日夜には、登別温泉バスターミナルを会場に、まつりを締めくくる『源泉湯かけ合戦』が行われ、氷点下の寒さの中、紅白に分かれた下帯姿の若者たち約70人が豪快に湯をかけ合い、見物の市民や観光客らとともに、今年一年の開運と無病息災を願っていました。



冬のふおれすと鉱山も楽しいな

～ふおれすと鉱山冬まつり～

2月5日(日)、ふおれすと鉱山で『ふおれすと鉱山冬まつり』(市主催)が開かれ、親子連れを中心に約200人が、歩くスキーや雪上ゲーム、ソリ滑りなどのイベントを楽しみました。

この催しは、冬のふおれすと鉱山や周辺の自然に親しみながら、楽しく過ごしてもらおうと開催されているもので、NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶと市婦人短期大学同窓会のメンバーがボランティアで協力しています。

雪上押しくらまんじゅうゲームでは、タイヤチューブの中に体を入れた状態で互いに押し合って勝敗を競い、観客の笑いを誘っていたほか、高さ約8mの雪山では子どもたちに混じって大人も一緒にソリ滑りを満喫。会場では温かいうどんやそばなども販売され、参加者は冷え切った体を温めながらおいしそうに舌鼓を打っていました。



意外な切れ味にびっくり

～黒曜石でナイフを作ろう～

1月28日(土)、郷土資料館で『黒曜石でナイフを作ろう』が開かれました。

この催しは同館の年間企画『シリーズ登別の縄文文化』の一環として行われており、市民ら12人が参加しました。

当日は、市教育委員会の学芸員と郷土資料館ボランティアグループSLGが講師を務め、道内産の黒曜石をシカの角で削るナイフ作りに挑戦。ナイフが完成した後はシカ肉切りに挑戦し、最初は切れ味に半信半疑だった参加者も意外な切れ味に驚きの表情を見せていました。

この後、切ったシカ肉を鍋にして、じっくりと味わいながら、縄文気分を楽しんでいました。

